平成26年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年８月７日

上 場 会 社 名	株式会社ＡＯＫＩホールディングス		上場取引所　東
コ ー ド 番 号	8214　URL http://www.aoki-hd.co.jp/		
代　表　者	(役職名) 代表取締役社長	(氏名) 青木　彰宏	
問合せ先責任者	(役職名) 取締役副社長	(氏名) 田村　春生	(TEL) 045-941-1388
四半期報告書提出予定日	平成25年８月９日	配当支払開始予定日	―

四半期決算補足説明資料作成の有無　：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

(百万円未満切捨て)

１．平成26年３月期第１四半期の連結業績（平成25年４月１日～平成25年６月30日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年３月期第１四半期	41,758	8.6	3,031	△4.2	3,305	△4.1	1,793	△11.3
25年３月期第１四半期	38,459	8.4	3,163	15.3	3,446	16.6	2,022	12.6

(注) 包括利益 26年３月期第１四半期　1,898百万円(4.7%)　25年３月期第１四半期　1,814百万円(5.3%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年３月期第１四半期	43.29	―
25年３月期第１四半期	48.53	48.50

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年３月期第１四半期	187,931	112,796	60.0
25年３月期	193,664	111,484	57.5

(参考) 自己資本 26年３月期第１四半期 112,796百万円　25年３月期 111,405百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年３月期	―	20.00	―	25.00	45.00
26年３月期	―				
26年３月期(予想)		30.00	―	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成26年３月期の連結業績予想（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期(累計)	73,290	8.7	2,500	△18.9	2,950	△9.6	1,650	△13.2	39.77
通期	175,800	9.5	18,600	8.9	19,100	8.6	10,300	4.8	248.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：有

③　会計上の見積りの変更　　：有

④　修正再表示　　：無

（注）第１四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料３ページ「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年３月期１Ｑ	45,624,752株	25年３月期	45,624,752株
②　期末自己株式数	26年３月期１Ｑ	4,056,033株	25年３月期	4,347,870株
③　期中平均株式数（四半期累計）	26年３月期１Ｑ	41,430,447株	25年３月期１Ｑ	41,670,933株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

頁

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間における我が国経済は、昨年末からの政府の経済政策などにより円安や株高の動きが継続し回復傾向で推移いたしました。しかしながら、個人消費は一部で高額品を中心に持ち直しの動きが見られましたが、全体としては引き続き先行き不透明な状況で推移しております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は417億58百万円（前年同四半期比8.6％増）、営業利益は積極的な新規出店に伴う費用や今後の出店に備えた先行費用等が増加し30億31百万円（前年同四半期比4.2％減）、経常利益は33億５百万円（前年同四半期比4.1％減）、四半期純利益は17億93百万円（前年同四半期比11.3％減）と増収減益になりましたが、概ね予定どおり推移しております。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

（ファッション事業）

ＡＯＫＩでは、クールビズに向けてご好評いただいている「プレミアムウォッシュスーツ」に加え、新商品として、ジャケットとスラックスの着回しで無限のコーディネートが可能な「ウルトラクロススーツ」や産学協同開発による立体縫製にストレッチ性とウォッシャブル機能を兼ね備えた「ＢＩＺ-ＴＥＣＨパンツ」、独自の仕様により涼しさを追求した「ＡＯＫＩ空冷シャツ」などを展開いたしました。また、引き続き好調に推移しているレディス商品を拡充し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、未出店県であった鹿児島県への２店舗を含め積極的に23店舗を新規出店する一方、移転により４店舗を閉鎖した結果、当第１四半期末の店舗数は479店舗（前期末460店舗）となりました。

ＯＲＩＨＩＣＡ（オリヒカ）は、クールビズに対応したジャケット・スラックススタイルの着回し提案を強化するとともに、話題のショッピングセンター等に７店舗を出店し、重点エリアのドミナント化を図った結果、当第１四半期末の店舗数は113店舗（前期末106店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果及びジャケット、スラックス、ワイシャツ等のクールビズ関連商品やレディス商品が好調に推移したこと等により、売上高は270億93百万円（前年同四半期比7.9％増）、営業利益は新規出店に伴う費用等が増加し19億58百万円（前年同四半期比9.5％減）となりました。

（アニヴェルセル・ブライダル事業）

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、既存店の活性化として多様化するウエディングに対するニーズやトレンドに応えるため「アニヴェルセル 長野」をリニューアルオープンするとともに、オリジナルのエンゲージ・マリッジリングの展開をスタートいたしました。また、引き続き料飲の販売強化と優秀スタッフのノウハウ共有に注力いたしました。

これらの結果、施行組数の増加及び平均組単価の上昇等により、売上高は62億80百万円（前年同四半期比2.5％増）、営業利益は平成26年２月開業予定の「アニヴェルセル みなとみらい横浜」の開業準備費用の発生等により６億円（前年同四半期比33.9％減）となりました。

（カラオケルーム運営事業）

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、有名アーティストや人気キャラクターとのコラボレーションキャンペーンの実施や春の新メニューなど期間限定メニューの提案強化及び９店舗のリニューアルを実施するなど、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では駅前などに３店舗を新規出店した結果、当第１四半期末の店舗数は、146店舗（前期末143店舗）となりました。

これらの結果、開店時間を早めたこともありファミリーや主婦、シニア層の客数が増加し既存店が堅調に推移したこと及び新規出店効果により、売上高は37億17百万円（前年同四半期比9.7％増）、営業利益は１億56百万円（前年同四半期比55.6％増）と増収増益になりました。

（複合カフェ運営事業）

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、オンラインダーツ等のアミューズメントコンテンツ拡充のため13店舗のリニューアルを実施するとともに、ゲーム関連企業とのタイアップ企画等により来店促進を図りました。店舗面では初の都心駅前立地で初の女性専用エリアを設けた池袋東口駅前店をはじめ６店舗を新規出店した結果、当第１四半期末の店舗数は217店舗（前期末211店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果と既存店が引き続き好調に推移したことにより、売上高は46億68百万円（前年同四半期比21.3％増）、営業利益は２億60百万円（前年同四半期比210.6％増）と増収増益になりました。

（２）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ57億32百万円減少し、1,879億31百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が新規出店等により７億88百万円増加した一方、売掛金が季節的要因等により22億39百万円、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により78億98百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ85億93百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により21億７百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ28億60百万円増加いたしました。

（負債）

流動負債は、短期借入金が30億円及び未払法人税等が法人税等の支払いにより61億56百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ104億29百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が設備投資のための資金調達と約定返済等が相殺され32億88百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ33億84百万円増加いたしました。

（純資産）

純資産の部は、利益剰余金が四半期純利益及び剰余金の配当により７億61百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ13億11百万円増加しております。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第１四半期連結累計期間の業績について、売上高は概ね計画どおり推移しており、またセグメント利益（営業利益）は各事業とも予想をやや上回る状況で推移しております。

今後の見通しにつきましては、雇用や所得環境、消費税増税問題などにより、第２四半期連結会計期間以降の景気等の先行きが不透明であること等により、平成25年５月10日に公表した業績予想を修正しておりません。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

従来、当社及び連結子会社は、平成10年４月１日以降取得した建物（建物附属設備を除く）以外の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却の方法について定率法を採用しておりましたが、当第１四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、子会社における出店数の増加や出店形態、出店地域等当社グループを取り巻く環境の変化に伴い、今後の有形固定資産の使用実態を見直した結果、その投資効果が長期にわたり安定的に実現すると見込まれることから、減価償却の方法を定額法にすることにより、取得原価を使用期間に均等に期間配分することで期間損益計算をより適正に行うことができると判断したものです。

この変更により、従来の方法に比べて、当第１四半期連結累計期間の営業利益は282百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ283百万円増加しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,396	14,497
売掛金	8,235	5,996
たな卸資産	18,908	19,696
その他	8,739	9,500
貸倒引当金	△11	△16
流動資産合計	58,267	49,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	44,087	46,395
土地	31,419	31,419
その他（純額）	15,584	15,384
有形固定資産合計	91,091	93,199
無形固定資産	6,497	6,833
投資その他の資産		
差入保証金	8,399	8,426
敷金	18,327	18,572
その他	11,123	11,269
貸倒引当金	△44	△43
投資その他の資産合計	37,807	38,224
固定資産合計	135,396	138,256
資産合計	193,664	187,931
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,273	16,079
短期借入金	3,000	―
1年内返済予定の長期借入金	5,696	4,896
未払法人税等	6,403	247
賞与引当金	1,936	803
役員賞与引当金	200	32
その他	11,697	12,718
流動負債合計	45,207	34,777
固定負債		
長期借入金	25,361	28,649
退職給付引当金	849	917
役員退職慰労引当金	1,640	1,663
ポイント引当金	768	796
資産除去債務	3,707	3,847
負ののれん	694	454
その他	3,949	4,028
固定負債合計	36,972	40,357
負債合計	82,179	75,134

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成25年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成25年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,586	22,724
利益剰余金	70,624	71,385
自己株式	△5,767	△5,381
株主資本合計	110,725	112,011
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	680	785
その他の包括利益累計額合計	680	785
新株予約権	79	―
純資産合計	111,484	112,796
負債純資産合計	193,664	187,931

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年６月30日）
売上高	38,459	41,758
売上原価	20,277	21,852
売上総利益	18,182	19,906
販売費及び一般管理費	15,018	16,874
営業利益	3,163	3,031
営業外収益		
受取利息	19	25
受取配当金	19	66
不動産賃貸料	199	169
負ののれん償却額	243	243
その他	120	46
営業外収益合計	602	551
営業外費用		
支払利息	76	73
不動産賃貸費用	185	162
その他	57	41
営業外費用合計	319	277
経常利益	3,446	3,305
特別利益		
新株予約権戻入益	－	5
特別利益合計	－	5
特別損失		
減損損失	29	285
その他	1	－
特別損失合計	31	285
税金等調整前四半期純利益	3,414	3,025
法人税、住民税及び事業税	723	237
法人税等調整額	669	994
法人税等合計	1,392	1,232
少数株主損益調整前四半期純利益	2,022	1,793
四半期純利益	2,022	1,793

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成25年４月１日 至 平成25年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	2,022	1,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△208	105
その他の包括利益合計	△208	105
四半期包括利益	1,814	1,898
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,814	1,898
少数株主に係る四半期包括利益	―	―

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第１四半期連結累計期間（自　平成25年４月１日　至平成25年６月30日）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

前第１四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,104	6,118	3,387	3,848	38,459	―	38,459
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	8	2	―	11	△11	―
計	25,104	6,127	3,390	3,848	38,471	△11	38,459
セグメント利益	2,165	908	100	84	3,258	△95	3,163

（注）１．セグメント利益の調整額△95百万円には、セグメント間取引消去829百万円、のれん償却額△133百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△791百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第１四半期連結累計期間においては26百万円です。

当第１四半期連結累計期間(自　平成25年４月１日　至　平成25年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	27,092	6,272	3,716	4,668	41,750	7	41,758	―	41,758
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	8	0	―	10	―	10	△10	―
計	27,093	6,280	3,717	4,668	41,761	7	41,768	△10	41,758
セグメント利益	1,958	600	156	260	2,976	△17	2,959	72	3,031

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、売電事業及びフィットネス関連事業を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額72百万円には、セグメント間取引消去1,013百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△941百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

３．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、主に回収可能価額が帳簿価額を下回っている遊休資産及び損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第１四半期連結累計期間においてはそれぞれ232百万円及び52百万円です。

３．報告セグメントの変更等に関する事項

「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項　会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載のとおり、当第１四半期連結会計期間より、有形固定資産の減価償却の方法について、定率法から定額法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第１四半期連結累計期間の「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」のセグメント利益はそれぞれ149百万円、10百万円、33百万円及び58百万円増加しております。